

## 中国の挑戦

野瀬 隆平

異常気象による自然災害が世界の各地で起きている。また社会に目を向けると、格差の拡大などに起因する人々の分断も問題となっている。

近年、いわゆる専門家だけでなく、一般の人たちも何かおかしいのではないかと、これまで社会経済を支えてきた仕組みに、原因があるのではないかと疑問を抱きはじめています。

そんな中で、中国はこれまで先進国が取ってきたような手法で、経済発展を続けており、海外にも勢力を拡大しつつある。

かつて、イギリスに後れを取ったドイツやイタリアそして日本がたどったのと同じ道を、歩んでいるように見える。軍事力を背景にして、勢力圏を確保しながら経済的な進出を行う。インフラの輸出に際しては、資金面の援助をするという名目で、そのカタとして設備や土地を押さえるという強引とも思える手法も辞さない。

先進国に追いつくために、帝国主義的な手法を取らざるを得なかった、かつての国々と似たような戦略を、中国は推し進めているのだ。

このような手法で発展しつつある中国も、一方では世界の国々が直面している自然界や社会で起きているような問題を見逃さず、国家の戦略に修正を加えざるを得ない段階に来ている。

たとえば今年八月に、「共同富裕」というスローガンを打ち出している。不平等な富の配分を是正するため、過剰な高所得に対して規制を行うというものである。高所得の定義など具体的な内容が明確でなく、どこまで実効性があるかはまだ分からない。しかし、少なくとも他国と同様に、これまでの制度を見直し始めているのは確かだ。

経済成長を前提に、個々人が最大の利益を追求することを是とする考えから脱却し、社会全体に出来る限り公平に富や福祉が行き渡る「全体の利益」を追求する。これが各国の課題であろう。

中国は、資本主義的な制度によって前進する中で、その仕組み自身が抱える矛盾を解決するという、いわば前と後ろの両方向の動きを同時にしているといえる。